

# 租税教育実践レポート

## わたしたちのくらしと税（教科横断的な取組）

登米市立西郷小学校教諭 6学年 高橋 久美子




実施年月日：令和2年10月26日 15名

### 1 実践計画・指導のねらい

6月に完全授業再開という今までにない1年が始まった。年間計画にあった租税教育については、税務署の伊藤様を講師に迎え6月に実施した。その際は「税は生活に必要」という感想を多くの児童がもっていたが、自分の生活と関わりがあることをどれくらい意識できたか確認が必要であると考えた。そこで、国語科の単元「町の未来をえがこう」と関連させながら、登米市の現状を「くらしと税」の視点から考えさせる場面を設定した。さらに「税に関する標語づくり」「子どもたちが考える登米市の未来新聞コンクール」などの活動を通し、日々の暮らしの中で税について意識できるように取り組んだ。

### 2 単元構成・実際の指導状況（単元を通した全体の主な学習計画及び教師の指導）

- 6月 税務署の方を招いて租税教室を実施。税金の役割や必要性を知る。 使用教材 DVD「マリンとヤマト」、模造一億円
- 10月 国語科 単元「町の未来をえがこう」と関連させて登米市の税金の使い道など、自分の暮らしと税の関係について意識を高める。

時間	学習内容	主な発問 (○), こどもたちの反応 (●), 使用教材等 (□)
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>副教材の表紙の税金クイズに取り組む。</li> <li>税の種類と使い道、国・県の予算について知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ <b>税金はどのように使われるのでしょうか。</b></li> <li>● 消費税の他にも税の種類がある。</li> <li>● 税の使い道はたくさんある。</li> <li>□ 使用教材名 副教材 「わたしたちのくらしと税金」</li> </ul> 
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>副教材のP3, 4の問題に取り組み、税金の使い道を確認する。</li> <li>登米市の税の支出について知る。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ <b>登米市の税金はどのように使われるのでしょうか。</b></li> <li>● えっ、県と支出の順番が違う。</li> <li>● 民生費の割合が多いから、「福祉の充実」が登米市にとって大事なのかなあ。</li> <li>□ 使用教材名 副教材 「わたしたちのくらしと税金」 租税教育教師用資料 「登米市の予算とまちづくり」</li> </ul> 
家庭学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>税に関する標語を考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>マンガ「おじいさんの赤いつぼ」を配付、この冊子やこれまでの学習を生かして税金について考え、標語を複数作る。</li> <li>□ マンガ「おじいさんの赤いつぼ」</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>税金とわたしたちのくらしに対する考えを深める。</li> <li>税に関する標語を清書する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ <b>税金がなかったら、わたしたちのくらしはどうなるのでしょうか。</b></li> <li>● 火事や災害でも人を助けることができず、人口が減る。</li> <li>● 学校に行けない。</li> <li>● 町が汚くなる。</li> <li>● 社会が壊れていく。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・税金は 国を動かす エネルギー</li> <li>・町作り 未来をえがく 税金で</li> <li>・税金は 未来のとびら 開かき</li> </ul> </div>

#### 【指導のポイント】<1時間目>

円グラフの金額や項目を目隠しにして予想させることで、児童の関心が高まった。支出項目のカードと項目の中身を書いたカードを結び付ける活動を行い、使い道について理解が深まった。

#### 【指導のポイント】<2時間目>

支出の割合のランキングを予想させ、根拠を述べながら意見を発表させたことで、自分の生活のことや登米市全体の取組などについて考えることができた。意見の交流が活発になった。

#### 【指導のポイント】<家庭学習>

資料がマンガ冊子になっていることで、文章理解を苦手としている児童も、取り組むことができた。

#### 【指導のポイント】<3時間目>

これまでの学習を振り返り、6月の租税教育で見たDVDを思い出させたり、副教材の「わたしたちのくらしと税」を参考にしたりして考えさせる。

- この後、「税に関する標語コンクール」に応募した。
- 3学期、未来の登米市について考え「登米市未来新聞コンクール」に応募した。
- 3学期、「税に関する絵はがきコンクール」に応募した。

### 3 実践の成果 (◎) と課題 (◆)

- ◎ 副教材「わたしたちのくらしと税金」は、児童にとって扱いやすい資料であった。図や写真などから税金が身近な暮らしに欠かすことができないものであることが分かった。
- ◎ 学校の教材や備品なども「税金で買ったものだから大事に使おう」とする態度が見られた。
- ◆ 登米市の税収入や支出について教師がグラフを作って児童に提示した。登米市版の児童用リーフレットなどがあると、児童はさらに自分たちのこととして税金について考えることができる。
- ◆ 国税、県税、地方税の関連については理解が難しいところがあった。社会の学習で再度税金の制度について振り返る必要がある。